

# 感染症 ひとくち情報

## RSウイルス感染症にご注意ください



2017年8月16日  
東京都健康安全研究センター

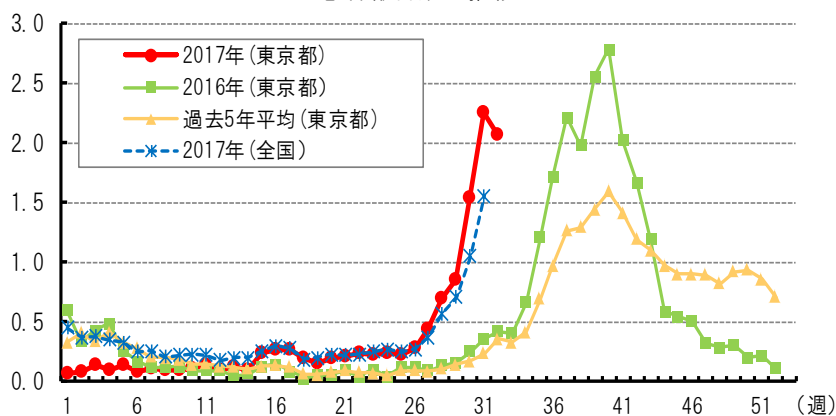
### 1 現在の流行状況

RSウイルス感染症は、毎年、秋から冬にかけて流行しますが、今年は早めの流行がみられます。8月7日～8月13日（第32週）の1週間に報告された患者数は定点医療機関※あたり2.07人となっています。

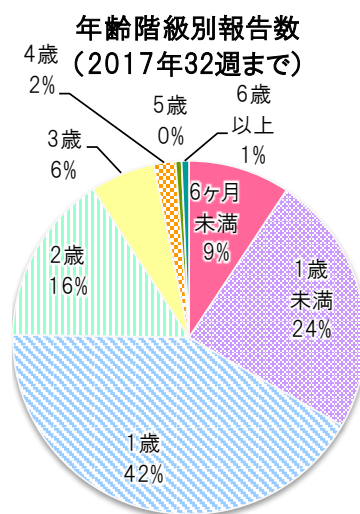
RSウイルス感染症の患者の約75%以上が1歳以下の小児で占められています。

(人/定点※)

患者報告数の推移



※ 定点医療機関：患者が多い疾患を把握するために受診患者数を報告している都指定の医療機関（小児科定点264か所）



### 2 RSウイルス感染症とは

RSウイルスを原因とする感染症で、2歳までにはほとんどすべての乳幼児がRSウイルスに感染するといわれており、いわゆる「かぜ」と同じ症状です。

多くの場合、軽症でおさまりますが、1歳未満の乳児の場合は急性細気管支炎、肺炎などの重い呼吸器症状をおこすことがあり、呼吸器や心臓に慢性の病気を持つ小児に対しては特に注意が必要です。

特効薬はなく、治療はそれぞれの症状に対する対症療法が中心になります。

終生免疫は獲得されないため、どの年齢でも再感染は起こりますので予防を心がけましょう。

### 3 予防のポイント

RSウイルス感染症は、咳やくしゃみによる飛まつ感染や、子供同士の触れ合い等による接触感染でうつります。集団生活ではおもちゃやタオルの共用を避け、子供の年齢に応じて、手洗いや咳エチケットを心がけましょう。

#### 咳エチケット

- ティッシュなどで口と鼻をおおう
- せき・くしゃみが続くときはマスクをする
- とっさのくしゃみは袖などでカバー



\*東京都感染症情報センターの「RSウイルス感染症」のページもご参照ください。

RSウイルス感染症 東京都

検索

